

俳句

第22回

【女性の俳句】

八木 忠栄

何人くらいか正確にはわからないけれど、俳句をつくる女性は現在かなり多いと思われる。結社誌を開くと、男性に負けないほど女性が多い。時代に伴う女性の社会的立場の変化とも関連するのだろう。戦前までは、俳句を詠む女性はごくわずかだったと言われる。

女性俳人が増えたのには、高浜虚子の「ホトトギス」の影響も大きかったらしい。そのことをここで詳しく述べている余裕はないが、俳句史がそれを証明している。現代詩の世界でも、だいぶ以前から女性の台頭が目立つ。書店の棚には、『現代俳句女流百人』とか『女流俳句集成』といった分厚い本が並び、女性の詩歌だけを集めた『現代詩歌集』もある。吟行やパーティの集合写真には、にこやかな女性たちがわんさか。

手元にある筑摩書房版現代文学全集の『現代俳句集』（昭32）には、内藤鳴雪から金子兜太にいたる73名が収められ、うち女性はわずか8名。講談社学術文庫『現代の俳句』（昭68）には107名中、女性20名。

女性俳人増は大いに結構。女性ならではの名句がたくさん生まれていることを、私たちもよく知っている。